

# 施策分析シート（平成22年度）

No1

<b>施策名</b>	体験学習等の推進	<b>施策No</b>	04-03	<b>部課名</b>	教育委員会事務局指導室		
				<b>課長名</b>	鈴木 明雄	<b>内線</b>	3380
<b>関連部課名</b>	教育委員会事務局学務課、社会教育課、子育て支援部児童青少年課						
<b>行政評価事業体系</b>	<b>分野</b>	子育て教育都市[ ]					
	<b>政策</b>	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]					
<b>目的</b>	<p>様々な勤労等の体験や人との交流や活動を通して、社会の一員であることや他者への共感や思いやりを実感させ、子どもたち自身が自己の生き方を考える系統的な教育を推進する。 清里や下田での移動教室では、豊かな自然の中で、集団での宿泊を通して、社会規範や集団生活でのルールやマナーを身につけるとともに、自然体験に親しませる。</p>						
<b>指標</b>	<b>施策の成果とする指標名</b>	<b>指標の推移</b>					<b>指標に関する説明</b>
		19年度	20年度	21年度	22年度	目標値 (28年度)	
	勤労留学実施校の割合	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	実施数 / 中学校数 (%)
	ようこそ青年海外協力隊実施率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	実施数 / 小5、6、中1学級数 (%)
	チャレンジ共和国	129名	206名	187名	145名	145名	参加者数 (目標値は定員数)
	小学校職業体験の向上	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	実施数 / 小学校数 (%)
<b>現状と課題（指標分析）</b>	<p>勤労観や職業観を培うため、中学校全校で働くことを実感し体験的に学ばせる勤労留学を実施した。成果があがってきているので、定着させることが課題である。 体験学習を充実する観点から、校外施設の設備については計画的に修繕等を行う必要がある。</p>						
<b>今後の方向性</b>	<p>《今までの成果及び指標分析を踏まえて》</p> <p>地域との連携・協力による体験的な学習の充実を図るとともに、勤労留学の受入れ先の拡大に努める。</p>						

施策の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	<p>本施策を通し、体験活動の充実を図り、地域と一体となった児童・生徒の健全育成に努める。</p>

# 施策分析シート（平成22年度）

No2

施策を構成する事務事業の分類						
事務事業名	事務事業 No	決算額（千円）		施策推進のための 分類		分類についての説明・意見等
		20年度	21年度	前年度 設定	今年度 設定	
小中学生と乳幼児との交流	08-02-05	403	371	推進	推進	小中学生に子育てを体験をさせる意味で優先度が高い。
下田臨海学園	12-03-32	54,337	125,576	推進	推進	水泳を中心とした心身の鍛錬は学校では体験できないものであり、優先度は高い。
清里高原学園	12-03-33	17,972	16,573	推進	推進	高原の自然や天体観測など都会では体験できないものである。移動教室との役割分担を図りつつ推進していく。
一輪車大会	12-04-01	105	162	推進	休止・完了	今日的な課題に対応する新規事業を検討する。
少年キャンプ研修会・子ども会交流育成事業	12-04-02	1,282	1,804	推進	継続	子どもに野外活動等を行う機会を提供し、優先度が高い。
少年教室	12-04-03	1,216	959	推進	推進	子どもに多様な体験をさせる意味で優先度が高い。
ふれあい教育の推進	12-06-03	1,982	1,840	継続	継続	地域と一体となった教育の充実を目指す。
体験学習推進事業（学校農園、体験型職業教育の推進）	12-06-04	3,373	4,855	継続	継続	地域と連携し勤労留学を全校実施する。
ようこそ青年海外協力隊	12-06-05	486	567	継続	継続	夢を育む事業として定着を図る。
清里移動教室	12-06-06	30,687	30,339	継続	継続	学校の創意工夫を支援し充実させる。
下田移動教室	12-06-07	31,600	31,717	継続	継続	一層の学校の創意工夫を促す。
合 計		143,443	214,763			